

令和4年度 第1回 熱海市総合教育会議 会議録

1. 開催日時：令和4年8月22日（月） 15時00分～17時00分
 2. 会 場：熱海市役所第3庁舎第1～3会議室
 3. 出席者：【構成員】市長[議長]・教育長・教育委員4名
【関係者】副市長2名・経営企画部長・健康福祉部長
【事務局】経営企画部次長・教育委員会事務局次長・学校教育課専門監・学校教育課長・生涯学習課長・図書館長・社会福祉課長・企画財政課長
【説明者】第一小学校校長・熱海中学校校長・HUB L i c 合同会社代表
4. 協議事項の審議結果：
- (1) 熱海市教育振興基本計画（兼教育大綱）の改訂について
⇒原案について全委員承認し、原案のとおり決定した。
 - (2) 学校等施設の適正規模・適正配置計画の改訂について
⇒原案について全委員承認し、原案のとおり決定した。

5. 議事要旨：以下のとおり。

- (1) 開 会
- (2) 市長あいさつ

開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日大変蒸し暑い中、またお忙しい中を今年度第1回の熱海市総合教育会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から熱海市の子供たちの教育の充実と発展にご尽力を賜っておりますことを感謝申し上げます。

改めましてこの総合教育会議の意義であります。法律の改正により、平成27年に設置され、首長と教育委員会が教育大綱や重点的に講ずべき施策等について協議調整を行う場としての役割が期待をされているものでございます。これまで重点施策である熱海市教育振興基本計画や、学校施設の適正規模適正配置等について議論をして参ったところであります。

そして本日の議題ですが、まず、小中学校教員等の多忙化解消と業務負担軽減についてという議題で、第一小学校の校長先生と熱海中学校の校長先生に報告を行っていただきます。次に保育士等のキャリア形成について、という議題で、当該事業を受託しておりますHUB L i c 合同会社代表のお話をうかがい、本市における課題とその対応について協議して参りたいと思っております。

また、協議事項といたしまして、令和2年度に策定しました熱海市教育振興基本計画、および学校等施設の適正規模・適正配置計画について、今年度で3年目となること

から、策定時からの状況変化等を踏まえて必要な見直しについて確認し、改訂の内容について協議して参りたいと考えております。これらの議題につきまして委員の皆様との意見交換を行い、互いに意思の疎通を図り、教育行政の推進を図って参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 議事

①小中学校教員等の多忙化解消と業務負担軽減について

第一小学校校長から資料1に基づき説明、続けて熱海中学校校長から資料2に基づき説明がなされた。

【質疑等】

(委員)

ただいまお2人の校長先生にご説明をいただきまして特に熱海中学校の校長先生からのお話、とても改革が進んでいるなというふうに思っておりますし、具体的に非常にわかりやすくご説明をいただいたと思います。

毎月毎月のご報告の中にもありますけれども、実は熱海中学校の生徒の様々な問題行動も随分少なくなっていて、校長先生が中心になってしっかりと業務改革を進めていただいているというふうに思っております。本当に頼もしく思っております。以上です。

(委員)

ご説明ありがとうございます、成長盛りの子供たち相手にとということで、本当に日々努力をしていただけて感謝申し上げます。その中でちょっと1点、校長先生に質問させていただきたいのですが。働き方改革の中で、朝の活動の見直しということで、掲げていただいているのですが、具体的にどういった活動の見直しをされたのか教えていただけますでしょうか。

(第一小学校校長)

熱海市の学校、静岡県ではわりと多かったのですが、朝の運動を行ったり、朝の学習を行ったり、いろんな形でいわゆる0時間目をやっていた、という形になっていきます。そのあたりで、ゆとりを持って1時間目にきちんと入れるよう、それからコロナウイルスのこともありましたので健康観察をしっかりと、という意味でも、そこにゆとりを持たせたい、ということで、時間的にはそこを圧縮し始業を早めるというような形で考えましたので、朝運動をなくしたことが一番大きいと思います。

(委員)

実際にいろいろ見直されている説明を聞いて、本当に大変ご苦労されているなと思います。今の委員の質問にも少し絡むかもしれませんが、自分も現役のときには日課表のどこで時間を削るかっていうので非常に悩んで、結局は削れなかったのが多いのですが、残念ながらどこかに線を引いて割り切らなきゃならないところって多いと思うんですね。先生がおっしゃったように、朝運動を無くされたとか、それから熱

中の方でも、朝に行っていた活動を精選されるとか、また朝の会帰りの会の見直しとか清掃とか、実はそこにも当然いろんな意味や思いがあるわけで、時間が生み出されたというメリットはあると思うんですけど、それらを無くしたことで、何かデメリット的なもの、課題的なものが、もし現在あればお聞きしたいのと、実際には先生方って本当にやりだしたらきりが無いと思うんですよ。どこかでやはり割り切らなきゃならない。本当はやらなきゃいけない、やりたいんだけども、どうしてもそこら辺までで、という何かジレンマ的な、先生方の悩みの的なものが何かあれば、お聞かせいただきたいと思います。

(熱海中学校校長)

いろいろな行事を見直していくということはですね、まず教員の働き方改革というのは、今まで結構意識のところを訴えてきたところが多いんですが、やはり本当に改革するというのはハードのところから取り組まないとなかなか変わらない。実際にこの教育、うちの場合には課題が不登校と学力だったんで、学力向上のためにという視点からいくと、朝速やかに授業に入るということ。朝の会をやった後にいろいろと学級の取り組みがあるんですけども、必要最低限の朝の会を10分とった後はすぐに授業に入る、それがリズムになるんですね。

働き方改革ってのはやっぱり1日のリズムづくりにもなるものですから、やはり今まで、これもこれも、とやっているとそこに無駄があったんです。本当にそれがどうなのかというと、今テストの成績を見ているんですけど、やっぱり向上しています。そういうようなことが実際数字としてあらわれていきますので、そうすると教職員の方もそのリズムに慣れてくるんです。

清掃も週3回にしましたが、この3回きっちりやること、それとあとは、階段を上りおりするときにこのごみを自分で気がつくようになってそれを拾うようになって、ということは、5日やらなくても3日で学校の綺麗さというのは保てるんですね、意識で。

そういうようなことで思い切った改善をしていく。でも、これは学校だけでは駄目なので、必ずPTAの方々常任委員会とかでお話をし、ご理解の上で進めているというようなことをしてますので、メリットはありましたけど、デメリットの部分は今のところはもう本当に見受けられないような状況でございます。

(第一小学校校長)

はい。今、熱海中学校の校長先生からもありましたように、やはり休み時間ですとか、朝の時間ですとか、それから、今までやっていた活動は、もう少し圧縮して質を高めることができないかっていうふうな形で考えていくことで、まず時間を生み出すことがポイントになると思います。でも一方でその隙間時間を減らさないと、その隙間時間に、私たち、子供のためになると思って何でも入れちゃうんですよ。

そうすると結局は、そこが子供にとっても多忙な時間になってしまうというところがあります。ですからそのあたりをもう一度見直しをしまして、全体的に圧縮をした

と。中休みも20分取らずに、中休みをとらずに10分にするとか、朝の活動もそのようにするとか、帰りのところもそうですし、先ほど熱海中学校長が言っていたように、清掃の時間もそうです。毎日清掃するという形ではなく、日によって、掃除をする日があったり、日によっては学級で活動する日があったりという形で組んでいくことで、計画的に質を高めていくということがポイントになります。

やはり何よりも、授業の質の向上が一番ですので、先生方に教材研究の時間ですとか、授業準備の時間を十分取ることが、そちらに繋がると思いますし、子供も、隙間時間にいろいろな活動が入ってくるということがないようにしないと、子供も授業に集中するということが難しくなりますので、そのような形で、学校の働き方改革と教育改革を進めている次第です。以上でございます。

(委員)

お二方の校長先生、ご丁寧なご説明ありがとうございます。日々、本当に皆さんが奮闘してらっしゃることがよくわかる発表をいただきました。

その上で、第一小学校の校長先生と、熱海中学校の校長先生に一つずつ質問させていただきたいんですが、第一小学校の校長先生の方の発表の中で仕事量の業務の改善、精選というところで、やめる、減らす、変えるという三つのキーワードをいただきましたが、もし差支えなければ具体的にどういうことをやめ変え減らしてらっしゃるのかを教えていただきたいです。

あと熱海中学校の校長先生の方は、中学生ということ年齢を考えて子供たちの主体性を高めるという意味があるのかなと思いましたが、夕方の下校指導を取り止めたということ、子供たちから自発的に振り返るようになったという文言がありました。これは、例えばどういうときにそれをお感じになるのか。そういうことが、もし教えただければと思います。よろしく願いいたします。

(第一小学校校長)

やめる、減らす、変える。学校の教育改革や働き改革のキーワードで必ず出てくる言葉なんです。それがなかなかできないというのも現状でございます。

やめるという部分については、今まで行っていた業務でやめたものはいくつかあります。例えば先ほど言いましたように、朝運動は今やっていません。それから、時間を短くするために中休みをとらないということも、やめるのか変えるのかちょっと微妙なところですけどやっていません。子供の在校時間を短くし減らしています。

変えるというところでは、日課で毎日やっていたものを、毎日やらずに、隔日でやっていくとか、そういった形をとっているということもあります。そのような形でいろいろなものやっていて、それぞれ効果を見ながら、変えていくことになります。なかなか難しいところがございます。以上でございます。

(熱海中学校校長)

それでは本校の方ですが、下校指導に関しましては、まず教職員の方では、ずっと長年続けていたので、これを廃止することは本当に大丈夫なのか、というような意見

はあったんですけど、思い切ってやってみようということで、スタートする前に子供たちにしっかり下校指導に関してなぜ指導していたのか、ということと、なくすことの意義についても十分話をさせてもらいました。

それで、それプラス、毎日うちの生徒指導主事が、毎日昼の放送で1日の動き、について話をするんです。その時に、例えば下校指導で何かあった場合に、例えば外部から連絡があったりするとその場ですぐに話をします。そのことをまた教室で振り返って話をしたりする。

下校に関しては、子供たちが今までは先生方と一緒に行って話をする。それにはその意味があったかもしれませんが、やはり自分で責任を持つ、ということですね、自己責任。ここに関して非常にうちは主体性とか自己責任というところすごく力を入れていきますので、本校の教育目標も今年度から、みずから考える力の育成にしたんです。

ですので、自分の行いに関して自分でしっかりと責任をとれる中学生になろう、というようなことをやっていますので、いろんな場面で、下校を振り返ってみようとか、学校生活を振り返って、清掃を振り返ってみよう、というような機会を設けておりますので、そのときにやはり自発的な主体的な動きが出てきたかなと思います。以上でございます。

(教育長)

ちょっと補足をさせていただきたいと思いますが、第一小学校さんについてはですね、県の研究指定校ということで、学校事務再編のための研究指定ということで事務職員の加配をいただいて、事務職員と力を合わせて先生方がどう働き方改革を進めているか、という1年目になりますので、またこれからですね成果が上がってくるかと思えますけど、今一生懸命取り組んでいただいているところです、ということをご理解いただければと思います。

熱海中学校の今ちょうどまさに委員さんがご質問された学校指導やめるにあたっては、ということありましたけれども。実は、言ってしまっただけで、校長先生に怒られちゃうかもしれませんけれども、教員の下校指導やめましたけれども、やっぱり不安なときにですね、実は校長先生、教頭先生がさりげなく熱海駅に行っているというようなことも聞いております。

ですから、そういう意味で何かをやめるときにやっぱり不安があるときに、きちっと管理職のカバーがなされているのかな、というふうに自分は思っているところです。本当にいい発表ありがとうございました。以上です。

(市長)

はい。これまでも、我々行政としても、校務の電算化であるとか、また学習支援員を確保したり、今教育長からありましたが、事務職員を加配したり、そういったインフラというか、そこの部分できる限り力を入れさせていただいたんですが、今日2人の校長先生からですね具体的に校長先生がリーダーシップを発揮して、また生徒とのやりとりもしながら、具体的な成果も出されていること、今日発表を聞いて大変ありがたいと思いました。

やめることで、教育効果が下がっては元も子もないという事にもなってしまいますので、そういうことがないはざまの中で、トライアンドエラーがあると思いますが、今後も引き続き、また、これまでやったことも、状況によっては見直すようなタイミングも出てくるかもしれませんので、引き続き、多忙化解消に向けて取り組んでいただきたいと思います。どうもありがとうございました。

②保育士等のキャリア形成について

HUB L i c 合同会社代表より資料3に基づいて説明がなされた。

【質疑等】

(委員)

ちょっとお尋ねいたしますが、先生方の働くことにやりがいがあるか持てないということでのこのようなプログラムの中で、やりがいを持ってもらうということは非常によくわかったんですけども、キャリア形成支援の進捗状況を見ますと、第1回目が実施済みですが、第2回目以降というのは、この内容については、同じものをしていくのか、あるいは違ったもので取り組んでいかれるのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

(HUB L i c 合同会社代表)

キャリア形成のプログラム研修プログラム自体は、同じ内容ではあるんですけども本人たちが設定する目標は変わっていきます、1年経ったり2年経ったりすると。

かつ、キャリアコンサルティングの1回目は、まず、この1年間どういう自分なりのキャリア課題、要は例えばこの1年こういうことができるようになりたい、とか、こういうことを達成したいということ、1回目で自分たちで設定してもらって、それについて取り組んでもらったことを、11月の2回目のキャリアコンサルティングの中でどうだったこの半年ってお話をさせてもらうと。

やってみただけどうまくいかなかった、とか、やってみてこういうことがうまくいったとか、これよりも優先順位高いものが出てきたのでこれに取り組んでみた、とかっていう話を聞いて、じゃあ次の半年今度は何するっていうのを、要はずっと繰り返していくことですね。

なので、問うている中身は一緒ですけども、本人が変わっていくっていう感じです。

(委員)

どうもご説明ありがとうございました。あんまり知らなかったことがより深く教えていただいて、すごく参考になったと思います。

本当に幼稚園、保育園も大変だと思います。先ほど小中の説明がありましたけども、それ以上に子供たちからも目が離せない、ずっと付き切りの中で、時間がないとか、いろんな相談する相手がいないとか、いろんな課題があるかと思いますが、こうやって、考える場、自分のキャリアについてのこととか、様子とか、そういう場を持たせていただいた、或いはそういう方針を与えていただけたというのは、すごくいい機会だったかなと思います。

ご説明の中に、例えば令和3年度に発見された課題ということで、ご説明がありましたし、さらに令和4年度新たに発見された課題というのもありましたが、これらというのは、熱海市の独特なものなのか、それとも、どこの幼稚園、地域でも同じようなものなのか、どうなのかなっていうのを思いました。

また、先生の説明の中で、とにかくその時間がないということ、それからコミュニケーションがなかなか取れないと、この現場の中で実際に時間をつくるのが、先ほどの小中の時間の生み出しではないですけど、可能なのか、何かをお考えがあったら、ちょっとお聞かせいただきたいなと思います。

(HUB L i c 合同会社代表)

ありがとうございます。熱海市に限った課題ではないと思います。どこの行政の機関の方と話してもやっぱり保育士の離職率が高まっているというお話は聞きます。なので、そこに限ったことじゃないことと、やはりコロナ禍で、より2年間コミュニケーションがとりづらくなっている、っていうのが実情だと思いますので、ちょっとなかなか比較するデータはないんですけども、熱海市に限ったことではないと。

ただ、このような支援を入れている保育園多分ほとんど他の行政ではまだ見受けられないので、こういう課題自体がちゃんと抽出されることがないので、いや、こんなこと起きてるんだって思われるかもしれないんですけども、これが見つかっただけでもまず一本目かなと思っております。

二つ目の質問の業務改善なんですけれども、おっしゃっていただいたようにやっぱり目が離せないですよ。コロナに関してもそうですけども、子供にいくら感染予防を言ったところでまだわからない小さいお子さんたちもいる中で、先生たちはものすごいストレスフルの中で仕事をしています。

まだこれといったものは見いだせないんですけども、先ほどお話をさせていただいたようにインフラの整備で解決できることは、やはり多少あるんじゃないかと思っておりまして。今は何でも入力することが必須になっているんですよ、報告書にしても、指導案とかにしても、ただパソコンが1人1台ないってことは誰かが使っていると使えなかったりする、っていうことなんですよ。

昔だったら皆さん自宅に持ち帰ってUSBに入れて端末に刺せたのが、今はセキュリティの問題上そういうことができなくなっているんで、園で完結して終わらせなきゃいけない。そうすると、どうやったら終わらないっていう課題があるので、また家にそんな何か急に執務室用意してくださいって言うてもできないと思うんですが、もう本当に端末1人1台とかWiFiがちゃんと通っているだけで変わると思います。

園によって差があるとは聞いておりますけれど、私はまずハード面の整備と個々人のモチベーション醸成の二輪かな、というふうには感じております。

その辺も今教育委員会とか、園長先生たちとお話させていただきながら打ち手をこうしているんですけども、今業務改善こうしましよって負荷をかけてしまうと、もうちょっともたないぐらい現場はフルフルなので、ちょっとその辺も含めて慎重に取り組んでいる最中です。

(委員)

丁寧なご説明ありがとうございました。何度か幼稚園保育園に視察をさせていただいた者にとってもとてもやはり身に詰まるような、発表の中身でしたので、これからもぜひよろしくお願ひしたいと思うんですけども、一つご質問させていただきたいのはキャリア形成支援のなかです。

研修とあとコンサルティング1回目、これを実施をしていただいたということですが、これのやり方というか個人個人の先生方と代表が一对一でおやりになるのか、それとも大きな会話の中にそこを見ていただいているのか、ちょっとここ知りたいと思います。

(HUB L i c 合同会社代表)

1番のキャリア研修というのは集合研修です。集合研修といってもグループワークにしているので、皆さんにちゃんと自分のキャリアを自分で考える必要性がなぜあるのかってということと、自分の日常の何にわくわくしたりとか、何にモチベーションが下がるのか、みたいなこととか自分の棚卸しと、あとどんなこと頑張っていきたいのかってということを、シェアしたりとかして、目標をまず決めます。

キャリアコンサルティング1回目というのは、すべて一对一の対面の面談で、1人当たり大体50分ぐらいを想定しているんですけど、いつももうマックス60分になるぐらい皆さんお話しされるので、それを今期は18か9人ぐらいですかね、やっております。

なので2回目も一对一です。最後の振り返りはまた集合研修で、去年もやったんですけども、実際1年通してどんな学びがあったのかということ自分たちで振り返ってまた、先生たち同士でシェアしていただくってということを、やっております。

(委員)

ご説明ありがとうございました。小中学校の多忙化解消というところも含めてなんですけど、先生方の豊かさは、やはり子供たちにも返ってくるものだと感じていますので、とてもありがたいと思います。ありがとうございます。

委員さんからも今ご質問いただいたところと重なるかもしれないんですが、もしかしたら私が聞き漏らしてしまったかもしれないんですけど、研修の集合でということなんですけど、その中でグループ分けをされたりするのか、あと年代も分かれてされるのか、というところもちょっと具体的に教えていただけますでしょうか。

(HUB L i c 合同会社代表)

今、対象になっているのが中間層中堅層と言われる層で、保育士さんとか幼稚園の先生になって4年目から40代前半ぐらいの方まで、今いらっしゃいます。グループ分けはできるだけ園とか年代が重ならないようにグループ分けしてシェアしてもらいたいなことを、やったりしています。コロナ禍なので、本当はコロナじゃなければシャッフルするんですよ、ワークの中で。組む相手を何人も変えて、いろんな人とお話できるようにするんですけど、ちょっと今まだまだ感染予防しながらなので、そこまでできてないっていうのが実情ですが本来はいろんな人と話してもらいたいと思っております。

(市長)

7ページの、仕事を始めてから仕事に行きたいと思って出かけた日はありません、というのは、私大変ショックでした。

代表がこういう形で関わっていただけるのは大変ありがたい。特に公務員こそキャリア形成が必要ということで発表いただいたんですが、その要因としてインフラの整備、個々人のモチベーション、ということを二つ挙げられたんですけども。パッと考えると、例えば給与であるとか、労働時間であるとか、人間関係であるとか、幾つか、インフラもあるかもしれません。園ごとによっても、施設が古い園と、ピカピカの新しいところもあります。それは、現時点では、整理というか今どういう状況というか、分析がなされているのか。

あと、令和4年度これをやっていただいているんですけども、これは継続的にやるのか、今年1年だけなのか、すいません私詳しくわかっていないのですが、全員に会っているのか、ピックアップされてやっているのか、その辺を教えてくださいませんか。

(HUB L i c 合同会社代表)

1個目の質問ですけど、インフラの整備は本当に園によって全然違うっていうのが今、実情ではありますけれども、もちろんインフラありきじゃないので、どっちかっていうと、インフラよりも、どこの園に配属されるかっていうことは、人間関係の方が大きいかなというふうには思います。

インフラの整備が今後どうなっていくとかかわからないんですけども、教育委員会の皆さんと相談しながらできる限りのことはしているんですけども、そこだけが影響してるわけじゃないと。ただ、モチベーションが高くなっても余りにもハードな仕事内容だと非常に苦しいので、そこをちゃんとこう整備していくってことは並行して必要なことだと思っています。

今全員にやっているのかという質問ですけども、本当は全員にやりたいです。ただ、去年がトライアルでまず12人の方にやらせていただいて、今年の中堅層まで広げて19人の対象者、ちょっと育休中の方もいらっしゃるのであれですけども、でもできれば本当はどの世代の人にもその世代の課題があったりするので、全員やれるようになるるとまた変わることもあるかな、というふうには思っております。継続してやりたいんですけども、継続の予算にはなっていないかなと思うので、今は1年ずつ次もやれるように提案をし続けているという形です。

(4) 協議事項

①熱海市教育振興基本計画（兼教育大綱）の改訂について

教育委員会事務局次長より資料4に基づいて説明がなされた。

【質疑等】

(委員)

ご質問させていただきます。部活動の地域への移行ということでご説明をいただきましたけれども、具体的な計画についてわかる範囲で教えていただきたいと思います。

(教育委員会事務局次長)

部活動の地域移行につきましては、本年に入りまして、文部科学省の専門家会議から提言がなされております。

これまで本市におきましては外部指導員、指導にあたる教員の代替となる一般の方を数名充ててございましたが、本年に入って部活動を地域に移行していこうというところがございます。

今後3年間かけて地域に移行していこうというところで、国の方では、具体的内容としましてはまずは、土日、祝日からと、こういうところを示しております。

このあたりにつきましては、受け手である地域もそうですが、まずは学校、特に部活動ですので、中学校を中心に教職員の意向調査を基本にしまして、少し悩ましいところではありますが、地域の受け手がどの程度あるか、というところの議論も、半ば並行して進めて参りたいというふうに思っております。

3年の一応猶予はございますが、今、存在する部活動すべてを移行できるかというところ、確実に移行できますとは今現在では申し上げることができない状況であります。

できれば、地域の受け手の状況を踏まえて一部を移行できればなというふうに考えております。以上です。

(委員)

ありがとうございます。加えて、地域の指導者にかかる費用とか、或いは保護者の負担とかあると思うんです。今後そういうことについてはどのようなことをお考えですか。

(教育委員会事務局次長)

費用的な面につきましては、財政的な方針がまだ定まっておられませんので何とも言えないところがございます。現状でいきますと外部指導員につきましては、時間単価当たり2000円、年80時間でしたか、上限を設けまして、報酬方針、謝金としてお支払いをしているという状況がございますので、まず地域が人材存在した場合にはこれがまずベースになろうかと思えます。

その次に、現在部活動にかかる保護者が負担すべき費用というものが多少はございますが、これらを地域に移行した場合に、やはり民間側も半ば経営をする観点を持ちますので、これまでの負担よりは増加する、ということが予想されますので、このあたりにつきましては、国の動向、国の財政的手当等々も踏まえて決定をしていきたいというふうに考えております。

(委員)

膨大な資料、見直し等をしていただきありがとうございます。その中で、資料の確認だけ何ヶ所かささせていただきたいんですけど、クリアしているところは青で表示していただいているかと思うんですけど、9ページのCEFRA1レベル相当以上割合と、29ページの個別指導計画作成割合、あともう1ヶ所、20ページの地域総合学習等授業数、これら3つ、おそらく達成しているかと思うんですが、ここもブルーでよかったですでしょうか。

(教育委員会事務局次長)

ご指摘の通りブルーになります。申し訳ございません。

(委員)

同じくちょっと戻ってしまうんですが、9ページのCEFRの目標指針が中学3年生50%ですが、実際この2年間目標をかなり大きく上回っているということで非常に嬉しいと思うんですが、目標設定をもうちょっと上げてよかったんじゃないか、と思ってしまうそういうあたりが熱海らしい、というところにもなるのかと思ったりしたんですが、全国レベルから見て62%というのは、どういうあたりに当たるのか教えていただけますでしょうか。

(教育委員会事務局次長)

民間英語検定アセスメントテスト、商品名でいきますとGTECと言われるものになります。受験者数は英検よりは少ないかもしれませんが、技能検定としては非常に全国的にも多く受験をされているというところですね。全国的な平均、それから県平均と比較しても遜色ない数字になっております。中学3年で50%というのが国が設定した目標値になるものですから、そのあたりにつきましては変更をすることは今回はいたしませんでした。

ただ、全体的なパーセンテージというところではなく、詳細を分析いたしますと、読む、聞く、話す、書くという4技能をテストしますが、話すの部分については、少し劣っています。こういったところを詳細に学校の中では分析をして対応をしている、というところがございますので、全体的なパーセンテージが高いからといって、というところはまだ課題としてございます。

(委員)

ありがとうございます。本当に教育全般にわたっていろいろなことを練って考えてくださっているものかなと思いました。

特にここという政策施策じゃないのですが、施策14の学校マネジメント、教職員の資質能力の向上ですか、26ページあたりが中心になり、先ほど委員もおっしゃった部活のことも関係するかもしれません。先ほどの第一小学校、熱海中学校の校長先生からの説明にもありました。教職員の多忙化あたりに関連してですが、そのときも申しましたけども、どこかでやっぱり線を引くっていうのはどうしてももう必要かなと、やればやっただけよくなるものはあるに決まっていますけども無限にできるわけじゃない。その線引きというのを、やはりしっかり考えなきゃなと。

先ほど熱海中学校の校長先生のお話の中に、いろいろ日課表を切った中で、ある目的を考えその目的に沿って、このようにしたほうが良い、というような強い考えがありまして、確かにもうそれが必要なのかなと思いました。

提案ではございません、感想かもしれませんが、例えば部活についても、今まではいろいろな意味がありました、心技体もありましたし勝つこともありましたし、生徒指導面もありましたし、勉強で活躍できない子が部活では清々とやるなんてこともありましたし、部活を通して力をつけて、例えば推薦とかでそっちの方向に進む子もいろいろありました。そんな中、学校教育の方でいろいろ面倒見てきましたが、地域に

移行するとなるとまたそこら辺で別の課題も出てくるかと思えます。場合によっては、スパッと学校から切ることも必要になる、という考えもあるのかなど。

こうしよう、というわけじゃありません。どうなるにせよ、やはりこういう目的だからこうした方がいいんじゃないか、っていうのを、ここに書かれて施策の中でより具体的に落とす時に考えることが必要かなと強く感じました。

またその折、熱海はこのように小さな地域で、学校数も少ないので、場合によっては、熱海市としての考え方をある程度、学校と共有した上で、どこの学校でも同じように考えようとか、或いは校長先生の強い指導のもとで、こう考えようとかっていう、かなり思い切った取り組みが必要なのかなと感じました。以上です。

(委員)

たくさんのご説明と丁寧なご説明ありがとうございました。

私からは、ICTのことについて一つご質問させていただきたいのですが、12ページ、目標設定100%のところは今76%というのは、指導できる教員の確保数ということになっております。先ほど委員から出た、部活動の外部支援員と同じように、このあたりも教員の先生方にこれをすべてゆだねるのではなく、外部から、例えば何か特化した方をお招きして、こういう事業に外部の先生というのかわかりませんが、そういうふうな事業をしていただく、また見ていただくというようなそういう計画はおありでしょうか。

(教育委員会事務局次長)

導入後数年経ちますが、その過程において、委員さんおっしゃられたように使われ方というのが一番重要になってくるであろうというふうに思っております。

まず機器の操作はもちろんなのですが、やはり学校で使うものになります。ですので、授業で使ってどれだけの効果が得られるか、持ち帰りの部分はさておき、というところになります。このような活用方法につきましても、一部のアプリケーションソフトの活用方法等も研修で行ったり、それから苦手な先生に関しては、少し時間外で研修する機会を教育委員会の方が設けたり、というような取り組みをしています。

また、先進的な取り組みをしている学校であったり、先生がおります。そういった方々の取り組みを、ニュース、通信、みたいな形で、全教員、全学校の中で共有をするというふうな取り組みを進めてございます。

財政的にある程度の手当ができれば、ICTの専門家を各校に配置したり、輪番で見ていただくということも必要になろうかと思えますが、現状のところは非常にICTに詳しい先生もいらっしゃいます。そういった取り組みを全市的に広げていく、こういうところからまず手をつけていきたい、というふうに考えております。

(委員)

10ページにあります施策4の読書活動についてです。最近読書離れということが激しいということがここにもデータとして出ております。課題の中に本市の若年層の読書量の増加は、学力向上含めて取り組む必要があると、まさにそうだと思いますが、現実なかなか読書の方に目が向いていかない。特にこれを聞いたところで、自分が想像したところですけど、最近の若者は時間をかけてゆっくり、例えばビデオなんかでも

早送りしちゃうとか。なんか、じっくり物事を自分で体験するっていうのは少なくなってきたのかな。行間を読むなんてことも、果たしてどうなんだろう。スマホに変わってきて、本当にその生の読書、紙のものを読む、という経験で何かすごく貴重じゃないのか。これからの子供たち大丈夫かなという危機感を持っております。

実は先ほどの話になりますが、熱海中学校の校長先生がお話しされた中で、朝の時間をカットされたというのがありました。デメリットはないと言いましたけども、昔はよく朝読書の時間なんていうのを設けたんですよね、10分間なりを黙々と本当に一言もしゃべらずに本を読みます。中学生もしっかり読みます。結構その読書をする好きな子が多かったようなイメージがあります。なくしたのが悪いってことではありません。先ほど申しましたように、ある考えがあつてのことですからいいんですけども、どこかで物理的に時間を与えてあげるってことをしないと、なかなか家で読んだよというのも難しいのかな。

10ページの施策の方向の最後にあります、読書離れに対応した施策を進める、というのがありますけども、何か施策案がありましたらお伺いしたいです。

(教育委員会事務局次長)

読書につきましては、学校で行うもの、それから自宅等で行うっていう、区別が単純にできると思います。学校においては学校図書ですね、司書さんの配置もございます。この辺りにどうアプローチしていくか、というところを市立図書館の方でも模索して、少しずつであります但し連携をとりつつあるという形になっております。

それから学校以外、自宅等での読書に関するアプローチに関しましては、県下では少し早めに熱海市立図書館の方で電子書籍をラインアップしてございます。若者向けの書籍をラインアップしてアプローチしていると、その中で今回1人1台タブレットを配布してございます。現在、十分に自宅への持ち帰り、というものはございませんが、そこからも電子書籍にはアプローチできるような形になってございます。まだまだ試行錯誤、効果が見えていない部分がございますが、そういった取り組みをですね、教育委員会内になります学校と図書館、というふうな連携をとりながら進めていきたい、というふうに考えております。

(委員)

生徒児童の教育をどういうふうにしていくか、ということですがけれども、学校だけに教育を任せるということではなくて、やっぱり市民、地域全体で子供を育てるという意識ってものすごく大事だと思います。

それは皆さんもわかっていただけたと思いますけれども、そういったことをやっぱりコロナ禍でもありますのでなかなか難しいことではありますけれども、市民の皆様に啓蒙するということも大事なことじゃないかなと。

市民の宝である子供を、市民のみんなの力で育てていきましょう、ということをやぜひどこかで伝えていただきたいな、ということがあります。

それと、もう一つ、教職員の能力向上といいますか、指導する力とかですねそういうことについて、現在様々なカリキュラム、研修会を行っていただいていると思うんですけども、改めてどんなふうな形で研修をされているかというのをちょっと教え

ていただきたいと思います。

(学校教育課専門監)

日頃、学校に関しては学校内で校内研修を中心に授業の研究を進めているところです。

今のような夏季休暇の時にはですね、取り出しで例えば先ほどありましたICTに関する研修であったり、危機対応の研修であったりっていう形で、研修を行っているところです。以上です。

(委員)

先生の中にも生徒に向き合って指導するのが難しいというか、不得意じゃ困るんですけども、特に上手じゃない方って中にはいらっしゃるんですよ。そういう先生方に対しても、やはり先輩の先生が、特に授業を子供たちに興味を持ってもらってうまくまとめていく能力のある先生方の指導、或いはその手腕を、やり方を教えていただけるような、具体的なそういったことも考えていらっしゃると思いますけれども、僕もそういうことを是非していただきたいな、というふうに思います。

(委員)

33ページ、35ページにあります、施策17、18に絡む、キャリア教育とか、地域企業、今後の熱海についてのことでしょうかね。子供たちに、後の熱海のことを考えてもらいたいというのがやっぱり大事で、ここにありますように、労働力の低下、人口減少、高齢化少子、このままずっとこれ続いていくと熱海がどうか心配になってきます。

ぜひ、熱海に戻ってきて熱海に住んで何とかしたいな、自分たちのふるさとが好きだなんて子供たちを何とか育ててもらいたいと思うんですが、そんな中で子供たちにとっては、熱海のことを調べるという機会がいろいろありまして、例えば総合的な学習の時間を使ったりとか、職場体験のこととかあります。

今はコロナ禍でなかなかそういうのもできないかもしれませんが、自分を思い出してみると、総合的な学習、熱海の特徴のあること例えば温泉について調べるとか、そういうことをばかりを結構やってきたし、やりやすかった面があるんですが、実際には、例えば先ほど講師でお見えになった起業した方とか、それから商店街、どんどんつぶれていきますけどもそういう商店街の大変さとか、後継ぎがないところとか、どうしても観光業ですからホテル、旅館が多いんですけども、そういうところの現状とか、何かそういう本当に熱海の特徴や課題について、もう少し学べる場があったら、もっと子供たちは熱海のことがわかるかなと、感じておりました。

ただそれを各学校でとなると大変かと思しますので、例えば市として、どこがやるかわかりませんが、こんなふうに調べれば、ここ行けばこんなことがわかるよ、とか、熱海のこういうことについて考えていくといいよ、とか、それを商工会議所とかJCとかの方にも協力、連携していただいて、熱海の事を本当にもっと子供たちが学ぶ場っていうのができたら、より熱海のことがわかるかなと思いました。

またそこら辺は教育委員会とかだけではできませんので、何か連携の機会を作っていただけたらありがたいと感じました。以上です。

(市長)

それでは、だいたいご意見持って尽くしたようですので。

まず3年目になりまして、これまでの状況変化をしっかりと反映させること。あと当然ですけれども誤植とかですね、ご指摘いただいたところはしっかりと直させていただく。また、ご提案については、この時点でこの文書に、ということではなくて、今日いただいた提案は引き続き教育委員会の方で検討いただく、ということで、本日の熱海市教育振興基本計画の案について、原案通り決定することでご異議ございませんか。

<異議なし>

ありがとうございます。それではご異議がないようですので原案通り決定することとさせていただきます。

②学校等施設の適正規模・適正配置計画の改訂について

教育委員会事務局次長より資料5に基づいて説明がなされた。

【質疑等】

(市長)

計画案の説明が教育委員会事務局からございました。

これから教育長また各委員からのご意見、ご質疑をお受けいたしますけれども、まず本市には小学校が7校、中学校が4校、幼稚園が3園ございます。そして、今の報告にもあった通りですけれども幼稚園の園児数につきましては著しい減少が見られる、ということで、保護者の就労状況に応じて、保育の需要の高まりもあり、移行の対応が必要になってくるかというふうに考えています。

特に泉幼稚園については、現在17名の園児のうち10名の園児が湯河原町から通園していると、そういう状況にあります。また、本日の資料の6ページ、これは小学校ですが、あと9ページこれ中学校に泉小中学校の児童生徒数の推移がありますけれども、小学校では、児童数の減少とともに、複式学級が生じており、中学校では生徒数の減少が続いていると、こういう状況にあります。

これらの点について各委員の皆様、また教育長からもご意見をいただきたいと思いますが、委員さんいかがでしょうか。

(委員)

市長もご指摘した通りこの数を見ると、この先はどんどん少なくなってくるのが予想されます。ただ、泉については、ちょっと語弊があって申し訳ありませんが、中心部と離れている一つの泉という独特の地域の中にある学校と受けとめております。

人数的に言ったら本当に小さくなっていくんですけども、やっぱり地域の学校、地元の学校として、また泉はいろいろな特色ある活動もしております、とても大事な場所かなと考えております。ここの原案にありますように、のちのちは義務教育学校への移行ですか、小と中が一つになってあの地域にある、ということはとても意味

のあることかな、と感じております。

ちょっと話ずれてしてしまって申し訳ないんですけども。初島はどうしても島でしょうがないという面がありますが、自分が初島にいたときに時々言われたのが、どうしても初島は別に見られてしまうと。初島のことはいくら見ても見えてくれないんじゃないか、なんていう人の声も聞きました。

泉という地域がある中で、もしここがなくなったときに、市としては泉をどういうふうにするか、この後考えてくれるのだろうか、何かそんな思いも湧くのかな、なんていうふうにも感じました。

この原案にある通りでいくのが、自分はいいのかなと考えております。以上です。

(委員)

私も委員とほとんど同じ考えではあります。まず泉というところの地域の特質性というのでしょうか。やはりあそこはとても地域との繋がりが濃いところであり、他のところと、というところと、どういうふうにこれから考えていくのか、というときにちょっとまだ、今は考えがまとまらない。

それよりはここに書かれているように義務教育学校として、一貫した教育ができる場所として残すことの方が、今は合っているような気がいたします。

(委員)

お2人の意見とほぼ同じなのですけども、現在その小学校、泉小学校が29名ですよ。で、6年生が抜けて、来年6名入学されるということでもた2人減ると27名というふうになってきますが、複式学級があるということも含めて、やっぱり生徒の少ない環境の中で子供が学習していくというのが、やはりその自己肯定感を高めるという意味でもですね。やはりそれはもういろいろ問題があることだというふうに思っています。

ですから、今まで統廃合を進めてきたわけですけども、お話の中にありましたように泉がやはりちょっと中心から離れた地域にあるということなんですけども、具体的にもし、中央の学校の方に一緒になるということになりますと、その方法についてもなかなか難しいところが現在はあるようにも思います。

ただ、将来にはですね子供の心の成長を含めてですね。統合も十分に考えていかなきゃいけないというのは、当然のことだと思いますから、移行可能性を検討していくということで、現状は、このままでいくということで賛成をしております。

ただ、地域の皆さんの意見もよく聞いて進めていく、ということが本当に大事なことでというふうに思っています。

(教育長)

基本的にこの案はですね、教育委員会案ですので、私もこういうふうにあって欲しい、という意図で出されているものです。子供の数の動向を見ていきながら、柔軟に考えなければならないとは思いますが、現時点では継続をしていくということで考えるべきものというふうに考えています。

(市長)

委員の皆様からご意見をいただきました。

これまでの児童生徒数の推移、また今後の少子化のことを考えたときに、泉幼稚園、また泉小中学校の今後について、様々な視点で議論をしていく必要があると思っております。

私からのお願いなんですけれども、今回提示された計画案については、現時点で了承すべきである、と私も考えておりますけれども、全市的な児童の生徒数の減少を踏まえて、市内の学校施設のあり方について、また子供の減少が著しい泉地区における教育施設を中心に、それぞれの地域を交えてどのようにしていくことが最善なのかということを、教育委員会において、教育長を中心にして、議論をスタートしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

あくまで計画はもうこれで私はよろしいと思うんですが、現状については今後、これからですね、どういうことが地域にとって最善かということを経験の方を交えて、保護者の方また児童生徒の皆さんももとよりですけども、そういった議論をこれからスタートしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、ここの資料5についてご意見はございますでしょうか。特にご意見がないようですので原案通り決定することでご異議ございませんか。

<異議なし>

ご異議ないようですので、学校等施設の適正規模適正配置計画につきましては、原案の通り決定することとさせていただきます。

(5) 閉会

終了 17:00